

テーマ「看護実践につながる原理原則の修得をめざした看護技術演習」

カテゴリー：①教育方法（授業・演習）

学校概要：学校名：京都保健衛生専門学校 所在地：京都市上京区千本通竹屋町東入主税町 910 番地

課程名：看護学科三年課程 1 学年定員数：40 名 修業年限：3 年

内容

看護実践は、看護技術が対象の状況により組み合わせたり、援助内容や方法が判断され対象に提供されるものである。看護実践は、対象によって内容や方法、技術の組み合わせが変化するきわめて複雑なものである。このような複雑な看護実践を学生が修得するには、看護技術における原理原則の理解と対象に応じて活用する実践が往還できる授業・演習が必要である。そして援助の中で変化してよいこと、変化してはいけないことを理解することで、原理原則をふまえた看護実践につながると考える。

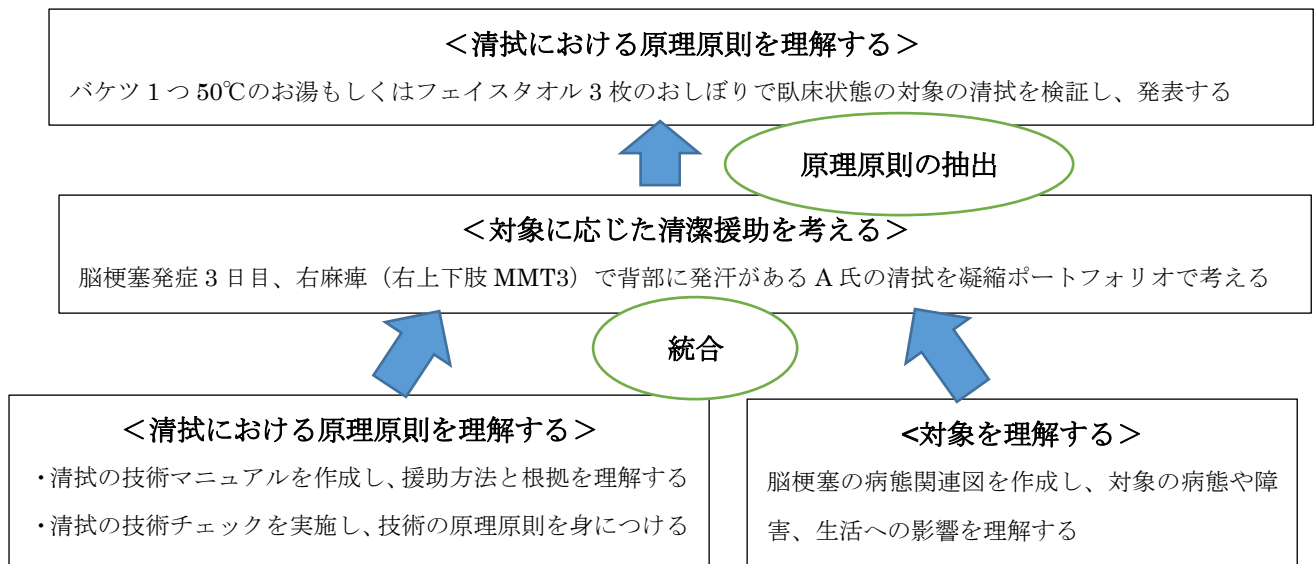
本校は、1 年次の 2 月にある基礎看護学実習 II (対象に応じた日常生活援助の実践)につながるために、授業・演習を逆向き設計で構築し、日常生活援助技術 1 単位 30 時間と日常生活援助技術演習 1 単位 30 時間を並行して展開し、原理原則をふまえた看護実践につながるようにしている。

清潔の授業・演習について報告する。

1 年次の日常生活援助と日常生活援助技術演習では、共通事例を設定し援助を考えるようにしている。

【授業・演習の展開】

- ① 各単元で技術マニュアルの作成と技術チェックを実施し、看護技術の原理原則の修得をめざす
- ② 病態関連図を作成し、対象の病態や障害、生活への影響についての理解をめざす
- ③ 事例の清拭援助について凝縮ポートフォリオを作成し、対象に応じた清拭援助を考える
- ④ 清拭道具を制限し、制限の中で臥床状態にある対象の清拭援助を検証し、発表する



【授業・演習の結果】

- ・凝縮ポートフォリオでは、対象の情報から現状と課題を考え、A 氏にとっての清拭の必要性を考え、A 氏の ADL をふまえて援助方法を考えている。
- ・清拭道具の制限の中で清拭について、「寒気を与えないこと」は厳守する必要があるが、拭く順序は道具や対象の ADL によって変更してもよいことを学びとして発表している。

以上のことから、学んだことを統合し対象に応じた援助を検討し、原理原則の活用について学び、条件を設定し援助を考えることで、「変化してよいもの」「変化してはいけないもの」について体験的に学んでいる。この経験を繰り返すことで、原理原則をふまえた看護実践につながると考える。